

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2020/12/31	2021/11/30	2021/12/24	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	27,444.17	27,821.76	28,782.59	30,795.78	2021/9/14	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	30,606.48	34,483.72	35,950.56	36,565.73	2021/11/8	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	103.25	113.17	114.38	115.52	2021/11/24	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～オミクロン株への懸念から週初に大幅下落も、過度な懸念が後退し、TOPIXは概ね横ばい～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+236.91円(+0.83%)、TOPIXが+2.31ポイント(+0.12%)となり、オミクロン株への懸念から週初に大幅下落も、過度な懸念が後退し、TOPIXは概ね横ばいとなりました。業種別(東証33業種)で見ると、海運業、空運業、その他製品などの11業種が上昇した一方、電気・ガス業、小売業、パルプ・紙などの22業種が下落しました。週初20日は、①先々週末の米国株市場が、FRB(米連邦準備理事会)によるテーパリング(資産買入れ規模の縮小)加速の決定を消化する中で、ハイテク株を中心に大幅に下落したこと、②中国人民銀行による利下げの決定を受け、中国景気の先行きに対する懸念が強まったこと、③欧州などでオミクロン株の感染拡大を受けた行動制限の強化が目立ち始めたことなどが嫌気され、大幅に下落して始まりました。翌21日は前日までの大幅な下落に対する自律反発を狙った買いの動きが優勢となったことなどから大きく持ち直し、その後もFDA(米食品医薬品局)がファイザー社の経口治療薬を承認したことや、米消費者信頼感指数が事前予想に反して改善したことを受け米国株市場が上昇したことなどを下支えに、堅調な推移が続きました。週末24日は、東京都でオミクロン株による市中感染が初めて確認されたことなどから感染拡大による行動制限強化への懸念が高まり、下落して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
12月27日	Mon	中国	工業利益(前年比)	11月	+24.6%
12月28日	Tue	日本	鉱工業生産(前月比)	11月	+1.8%
			失業率	11月	+2.7%
12月31日	Fri	中国	製造業PMI(購買担当者景気指数)	12月	52.3
			非製造業PMI	12月	50.1

決算発表予定 他 国内 決算発表 : 12/27しまむら 12/28 スキHD

※当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～経済活動の正常化期待がプラスとなるも、年末年始休暇を控えた様子見姿勢から、一進一退で推移～

今週の日本株市場は、経済活動の正常化期待がプラスとなるも、年末年始休暇を控えた様子見姿勢から、一進一退で推移するとみられています。

新型コロナウイルスを巡り、国内でのオミクロン株の市中感染が相次いで報告される中、年末年始の人流増加による感染再拡大懸念が意識される状況は続くともみられますが、英米に続いて国内でも経口治療薬の使用が承認されたことなどが一定の安心材料として働き、株式市場全体を押し下げるには至らないともみられます。また、先々週末の大手自動車メーカーにおける国内工場の一時稼働停止報道を受け、供給制約が想定より長期化すると懸念が強まりましたが、28日の鉱工業生産において生産活動の回復が確認されれば、来年に向け経済活動の正常化期待が高まるとみられます。但し、年末年始の休暇を控えて積極的にリスクをとる投資家は限定的と思われる、一進一退で推移するとみられます。

その他の注目材料として、日本では28日の失業率、中国では27日の工業利益などが挙げられます。

2021年の週間日本株レポートは今号が最終となります。

次回は年明け1月4日となります。来年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会